

地区だより

発行：まちづくり推進協議会
(事務局；須々万支所)
TEL 88-0001
昭和61年2月5日

第11号

コミュニティ

交流集会開催

市政施行五十周年・合併二十周年記念行事の最後を飾り、「北部地区コミュニティ交流集会」が、去る一月十一日飛竜八幡宮参集殿で行なわれました。

この集会は、徳山市に合併以来薄れている旧郡濃町(須々万・長穂・中須・須金)の交流を深めようと、まちづくり推進協議会が中心となって話をすすめ、各地区のコミュニティ団体の協力を得て実現したものです。

当日は、小川市長を始め、徳山市から末富企画部長・有田社会教育課長・浜田市民生活課長・廣林市民生活課長補佐・武居コミュニティ係長らを招き、各地区から関係者約百名が参加して、盛大な集いとなりました。

福井須々万地区老人クラブ連絡協議会会長の開会のあいさつのもと、山下須々万地区婦人会長の音頭による市民憲章唱和、小田まちづくり推進協議会会長の主催者あいさつ、小川市長の来

賓祝辞などで式典を終えました。

来賓紹介のあと、小川市長より「北部地域の課題とコミュニティの役割」という演題で講演をして頂いてから、意見交換を行ない、中須をよりよくする会の下原会長が謝辞を述べられたあと、懇談会となりました。

懇談会は、住みよい長穂をつくる会の内山会長、乾杯の音頭で始まり、アトラクションとして、須々万の舞踏グループ「緑扇会」の踊りが披露されました。曲目は、おなじみの「娘よ」や「細雪」などの他、記念事業として創作された「須々万音頭」も披露され、参加者の目を惹きつけました。また、市長のカラオケも飛びだすなど、新春にふさわしい和やかな集会になりました。

最後に、生きがいのある須金をつくる会の野村会長の音頭で万歳三唱を行ない、散会しました。

新春歩こう大会



一月一日、恒例の新春歩こう大会が開催されました。参加者はお年寄りから子供まで約二〇〇名で、最高年齢者は藤井嘉作さん(今年九十才)約五キロメートルの道のりを元気に歩きました。午前八時に支所前を出発し、総合グラウンドで式典を行ったあと、開通したばかりのふれあいの森幹線道路を通過して飛竜八幡宮へ、ここで、福引きを行ない解散しました。

「記念事業」ご協力ありがとうございました

市政施行五十周年・徳山市合併二十周年を記念した諸事業は、昨年十月二十日の市民運動会を皮切りに、「ふれあい音楽祭」「須々万の歌」「産業文化祭」「カラオケ大会」「タイムカプセル」「ふれあいの森」と相次いで多彩な事業が展開され別記「コミュニティ交流集会」をもつて全て終了いたしました。

これら一連の事業が、天候にも恵まれ、市民多数の参加を得て、まちづくり活動に輝かしい一ページを記すことができたのは、地域の皆さんの暖かいご支援、ご協力の賜であります。

主催者として、心から感謝いたしますとともに、厚くお礼申し上げます。本当に有り難うございました。

記念事業に寄せられた皆さんの期待と盛り上がり、これからの「まちづくり」に無限の活力となることを願ってやみません。

なお、諸事業に要した費用総額は二百四十一万四千三百十六円で、内訳は別表(裏面)のとおりとなりました。

紙面をかりてご報告申し上げ併せてお礼にさせていただきます。

協賛金について

(1)協賛金

一、〇五六、八〇〇円は、事務局に寄せられた一般寄付、広告料、祝儀などの現金です。

◎内訳

- 一般(一件一〇〇〇円以上) 一二二件 七二三、五〇〇円
- 自治会 一、一〇六戸 三三三、三〇〇円

(2)特別協賛

市民運動会の商品、記念事業アドバリン、タイムカプセルの築山造成や石材などの寄贈があったほか、「ふれあいの森」整備に奉仕活動がありました。

「須々万の歌」テープを分譲します。

・3曲入りのカセットテープ

A面 唄入り 一本400円

B面 カラオケ

・ご入用の方は須々万支所へお申込み下さい

謹賀新年

ご家族お揃いでよきお年をお迎えのこととお慶び申し上げます
今年もどうぞよろしくお願いたします

昭和六十一年元旦



まちづくり推進協議会

(別表)

記念事業の収支 (見込)

収入の部		支出の部			
●分担金		市民運動会	462,189		
まちづくり協	324,516	ふれあい音楽祭	148,334		
自治会連合会	284,000	市民運動会ほか	須々万の歌	474,500	
●助成金		産業文化祭	204,160		
地区社協	110,000	カラオケ大会	146,200		
徳山市	236,000	タイムカプセル	159,481		
●事業協賛金	1,056,800	別記参照	ふれあいの森	164,428	
●団体負担金	141,000		コミュニティ交流集会	365,004	
●その他	263,000	会費祝儀	事務局費	291,000	見込み
(計)	2,415,316	(計)	2,415,316		

◎ 建国記念の日奉祝

第14回周北武道大会が行なわれます。

と き 二月十一日(火)八時三十分から
と ころ 徳山北高等学校

参加者は四市三町より六百名の予定です。

◎ 凍結防止剤を配布します

近所に危険箇所がある方は、凍結防止剤を支所にて無料配布しておりますので、お申し出下さい。

◎ 申告相談があります

二月十七日(月)から三月十五日(土)まで所得の申告期間になります。
須々万地区の申告相談日程は次のとおりです。
二月 十七日(月) 市税務課
二月 二十四日(月) 税務課

※ お詫びと訂正

昭和六十年十月十五日号の地区だよりに掲載した五十周年記念式典での表彰者で、お名前の載っていない方がありました。たいへんご迷惑をおかけしました。

お詫びして、訂正いたします。

市制施行五十周年記念式典受表彰者

自治功勞

高樋・藤井恒夫 殿 (消防分団長)

「維新再現」

「県ふるさとづくり」

シンポジウムに参加して

地域活性化の道を探り明治維新のエネルギーを再現して町づくりを進めよう。と昨年十一月十一日、「維新再現」県ふるさとづくりシンポジウム(県ふるさとづくり県民会議など主催)が県庁で開かれ、県下各地でふるさとづくりに取り組んでいる団体、グループのリーダーら約四百人が参加。パネリストとして維新の原動力となった鹿児島(薩摩)、高知(土佐)、佐賀(肥前)それに山口(長州)から阿武郡阿武町農村青年協議会会長、豊浦郡豊田町鷹子営業婦人部長の五人。コーディネーター 山口大学人文学部の小川全夫助教授の司令で実践活動の報告や意見交換などを通してふるさとづくりの在り方を考えた。

各パネリストの発言内容の概要は、鹿児島では「郷土愛をベースに文化、教育、スポーツなどあらゆる分野に若者の知恵と行動を結集している。そして門松の普及キャンペーンをして地元産の竹の需要増に成功した例の紹介。農協事業をまちづくりの軸とする高知では「米転作の大豆を使って豆腐生産に効果を上げ、主婦の収入増や健康づくりに取り組んでいる実情の説明。佐賀では「非行防止に自治会、PTA、子供会がこぞって参加、親子三代の連帯、ふれあいを深める各種の地域行事を通じて町づくり活動の様子を報告。

豊田町では「観光ナシ狩りに来る客に、地元農家が共同で作ったナスのからし漬を提供し観光事業に一役買いそれがきっかけで地元の間関係が良くなった例の紹介。阿武町では「公民館主尊型であったのを青年協議会が四つのチームを作り、二十一世紀のふるさとを目ざして、

ふるさとづくりに取り組んでいる様子の報告。

尚はじめに、NHK解説委員手重昭氏により「二十一世紀へむけてのコミュニティづくり」の基調講演がありました。西ドイツの話でしたが、まちづくり、国づくりの基本は教育にある中心に倫理教育、小学一年より、「うそをついてはいけません。」「盗んではいけません。」「人に迷惑をかけてはいけません。」「と教え込んでいるとか。

最後に小川助教授が「明治維新は刀を使ったが、これからは知恵を出し、個性ある町づくりをしよう」と討論を締めくくり終了しました。最後に感想を一言、共通していえることは、行政主尊型でなく住民主尊型のまちづくりであること。

桜井泰造(地域振興部会長)

ミニ講座

◆地名字名の起源◆

前回に引き続き、地名字名の起源を、いくつかご紹介します。

【和奈古】

昔、この地に阿和奈社と称する神社があり、古記によって考えるに、阿和奈の社名より転じて和奈古になったらしい。

【高樋】

高地で水の便が悪く、昔灌漑用水を樋を高くし掛けて通したので、高樋となったと伝えられる。

【牛ノ毛】

住古酒気を含んだ霊泉が湧出し、使用していたが、ある日牛が飲もうとしたので、「牛退け」と云ったので、牛ノ毛に変わって地名となったという伝説があるが、こじつけとの説もある。

#####

火災・交通事故が多発しています!!

今年に入って、家火事2件、交通事故5件が発生、死亡者も出ています。

厳しい寒さが続いています。春はもうすぐです。火の元や、交通安全には充分ご注意ください。

原稿大募集

みなさんからの原稿を募集します。

- 内容：自由
サークルやグループの紹介、
会員募集、詩、イラストなんでもOK!

○応募とお問い合わせは……

まちづくり推進協議会事務局
(須々万支所)

TEL 88-0001